基準年月日 令和5年8月1日 **作成責任者** | 農村振興局農地整備課長 所 管 部 農政部 調書番号 06 - 04担当係 水田整備係(内)27-568 基本事項 (基準日時点) 事業種別 道営土地改良事業費(農地整備事業(中山間地域型)) 1,297 <sub>百万円</sub> 市町村名 厚沢部町 総事業費 **地区名** 滝野 玉 32.5% 市町村 その他 12.5% 55.0% 渞 負担割合 422 百万円 162 百万円 713 百万円 - 百万円 ●良質米の安定生産及び転作作物の生産性向上を図る。 ●農作業効率の向上及び水管理の合理化により労働時間の縮減を図る。 ●担い手への農地集積を図る 事業目的 ●安全・安心な食の生産をささえる。 ・目標 【アウトカム】 等 ●事業実施前(H29年(2017年))の担い手農地利用集積率(受益面積のうち担い手が耕作する面積の割合)は77.7%だが、 本事業を実施することにより事業完了翌年には89.9%と上昇が見込まれる。 本地区は北海道南西部の 受益面積 111ha → 113ha (百万円) (百万円) (百万円) 厚沢部町に位置し、水稲 受益戸数 32戸 前回評価 今回評価 増減額 を主体としてばれいしょ や大豆等を作付けしてお 〇用水路 2,132m 187 240 53 り、牛産性の高い農業基 〇排水路 3,002m 518 783 265 盤の確立を目指してい 工事費 O区画整理 11ha → 19ha 38 74 36 る。本事業では、未整備 事業概要 となっている用排水路の 内訳 (整地、暗渠排水) 整備とともに、現況40a ○測量設計費 124 173 49 程度の区画を1ha程度の 〇用地買収補償費 用地買収・電柱移設ほか 5 22 27 規模への大区画化と排水 改良のための暗渠排水な どの総合整備を行う。 408 889 1,297 大項目 中項目 小項目 施策名 総合計画 総合計画 潜在力のフル発揮で地域 での 農林水産業の持続的な成 の体系 経済•産業 の経済・社会を支える農 農業農村整備の推進 位置付け 業・農村づくり 【計画名:第6期北海道農業・農村振興推進計画 P23】(生産基盤の強化) 施策目標 スマート農業技術や高収益作物の導入を容易とするほ場の大区画化や農地の排水対策など、農業 特定分野別 ・方針 の生産力と競争力の強化に向けた整備を推進する。 計画等での 位置づけ 関連する指標 食料自給率(カロリーベース) 令和12年度(2030年度) 目標値:268% 公共事業評価経過 П 総事業費 当該年度 累計事業 進捗率(b)/(a) 事業採択 着手 評価年度 完了予定 道負担額 (a) 事業費 費(b) 事 経 事 H30 H30 H36 事前評価 過 889 289 業 又は当初 (2018)(2018)(2024)年 業 数 前回再評 経 費 **R5 R7** 過 5 今回評価 1,297 58% 422 339 751 (2025)(2023)変更理由・内容 (1) 農地流動化に伴うほ場追加による増額 (2) 残土運搬距離の増による増額 (3) 仮設工の追加による増額 (概要) (4) 自然増及び消費税率変更による増額 (5) 河川協議の結果に伴う事業期間の延伸 本地区は一部の用排水路やほ場の整備を平成初年代の災害復旧事業、平成20年代の団体営事業により実施してきたが、大部分の生 1. 事業採択に 産基盤は未整備であり、排水路の切深不足や暗渠排水の未整備により転作作物の生育不良や作業性の悪化が生じているほか、ほ場 が不整形かつ小区画であるため、作業効率が悪く担い手への農地集積の支障となっていた。このため用排水路整備と一体的なほ場 至る経過と背景 の大区画化による効率的な営農に資するため、平成27年(2015年)に厚沢部町から事業採択に向けた要望が出された。 ●H27年(2015年)5月 厚沢部町から檜山振興局へ整備要望 2. 事業検討の手 ●H28年(2016年)4月 振興局で地域の整備要望を踏まえ調査を開始 続(住民ニーズの ●H29年(2017年)11月 土地改良法に基づき事業申請 把握等) ●H30年(2018年)4月 事業採択 3. 事業効果を ●厚沢部町 及ぼす 受益面積111ha→113ha、受益戸数32戸 地域・対象 容 事 業 名 事業主体 事 業 期 間 事 内 事業費(百万円) 業 4. 関連する事業

		施状況 (1) 事業実績及び今後の計画													
	施工(工種)区	分 工事	事内容	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			進捗状況	事業費(百万円
1 . 進捗状況	用水路	L=2	,132m							`	2,132m >			0%	240
	排水路	L=3	,002m		•	L=240m	\	L=48	80m >	`	2,282m >			71%	783
	区画整理	Α=	19ha			•	$\leftarrow$	A=7ha	$\longrightarrow$	,	<sup>2ha</sup> >			43%	74
	測量設計費	調査		<del></del>		実施設調	計·施工管		$\longrightarrow$	_	童理等_>			89%	173
	用地費及補償	<b>青</b> 用地買収	又•物件補償		•	<del></del>	用地	買収	$\longrightarrow$	< <sup>電</sup>	主移設 >			31%	2
	(2) 進捗状況  ●事業は概ね予定どおり進捗しており、今後の実施に当たっても特に大きな支障となるものはない。														
	a:概ね予定どおり実施している。 b:事業計画・期間等を変更し実施する。 c:問題が生じ、実施に支障をきたしている。														
	経済効果の内	小訳 (百)	・ 費用の内訳(百万円)									備考			
	項目		現在	項目			R 5	R5現在				の費用対効果		ュアル」(農林	k産省R4改正
	作物生産効果	1, 0	1,270 農業用							き算出。 は、「事業	ありせば」「	事業なかり	りせば」の比較に	こよる作物生産	
	品質向上効果		529		画整理		94			*** Alm *** **				維持管理費の節減 終換算により算む	
						_	0 1		<u> </u>	<ul> <li>経済</li> </ul>	効果の合計		は、「工其	期十40年」の素	
	営農経費節減効果		619			iΣ		8	871	・農業	用用排水的	設と接続する		きなる。 k施設等にかかる	る費用を「関連
	維持管理費節減効果		△ 41									.している。 効果は、現施	E設の維持管	管理費に対して、	再整備した地
, <del>+</del>	国産農産物安定供給	効果	166							・維持管理費節減効果は、現施設の維持管理費に対して、再整備した場合の維持管理費の増減及び事業を実施せず現施設がなくなった場合の維持管理費の増減の合計より、マイナスとなる。					
2.事業効果	合計 (B)	>= (D)				, )		2.1	200						
	B/C	前向質	2,543 合計(C) 2,380 算定年度: H29年度(2017年度) [事業採択]												
							,			-					
	前回算定時B/C: 1.21 (合計 (B) 1,804 合計 (C) 1,486) R 5 現在 変更理由:														
	・営農経費節減効果算定時の用水なかりせばシナリオの変更による総便益の増加 ・事業費の増額に伴う総費用の増加 ・諸係数・単価等の時点修正による効果額の変更														
	1.00	• 諸係数					効果額 <i>0</i> .	)変更				が文皿で知る	55		
	取組の項							変更組内?	容					縮減額(	百万円)
3.コスト 縮減など		[E		の時点	修正に	よる交	取	組内和		川用				縮減額(	百万円)
3 . コスト 縮減など の取組	取組の項	[E	数•単価等	の時点	修正に	よる交	取	組内和		川用		文皿の元		縮減額(	百万円)
縮減など の取組	取組の項施工の最適化	[E	数•単価等	の時点	修正に	よる交	取	組内和		JH				縮減額(	百万円)
縮減など の取組	取組の項施工の最適化  ・ 本地区は、前深不足や暗となる時となるである。 ・ 事業の必要性	歴事業とし 水の未を備 に変化はな	数・単価等の 工事で発生し いて災より転用が になら、着実に なく、着実に	の時点 したする ヨ事業や に事業や に事業の	修正にき取り!  さりとは一点を対している。  なりとは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	はよる 効物を 送 事良体図 業、的る	取が によりが はほよりが なほほ場が 必要が	組内を 実不のある。	て再利してある。	たが <b>、</b> 小区画 により	大部分である。	の生産基盤 ため、作業	館は未整質効率が	備であり、‡ 悪く担い手	非水路の切
縮減など の取組 / 評 価	取組の項施工の最適化  ・ 本地区は、前深不足や暗渠排積の支障となっ ・ 事業の必要性	歴事業とと順かれていたはなる は、水のたになる は、ま業の は、まま業の は、手業の は、手業の は、手業の は、手業の は、手工後	数・単価等 工事で発生し ごなより転削 にから、用掛	の時点 したする 事業物の整 により により	修正に  の  の  の  の  の  の  の  の  の  の  の  の  の	なる 物を 学不一を どの まい かん	取続 にほ場は には場場が の事業で 変更が	組内を実不のあれば、	て再利である。	たが、 小区画 により	大部分である。	の生産基盤 ため、作業	館は未整質効率が	備であり、‡ 悪く担い手	非水路の切
縮減など の取組 / 評 価	取組の項施工の最適化  ・ 本地区は、前深不足や暗渠排積の支障となっ ・ 事業の必要性	歴事業として 歴事業をがある。 でいたことに変化はなる。 は、事業ののは、事業ののは、事業のは、音話である。 は、音楽のは、音楽のは、音楽のは、音楽のは、音楽のは、音楽のは、音楽のは、音楽の	数・単価等の 工事で発生し で発生し で発生し で発生し でのより、用 がにない、着実に 必要性に変化 のの状況変化	の時点 したする まずの ままれる ままれる ままれる ままれる ままれる という いいしん にんしん いいしん いいしん いいしん いいしん いいしん いいしん	修正に  の  の  の  の  の  の  の  の  の  の  の  の  の	なる 物を 学不一を どの まい かん	取続 にほ場は には場場が の事業で 変更が	組内を実不のあれば、	て再利である。	たが、 小区画 により	大部分である。	の生産基盤 ため、作業	館は未整質効率が	備であり、‡ 悪く担い手	非水路の切
縮減などの取組 評価 価値 ・ 必要性	取組の項施工の最適化  ・ 本地区は、前深不足障となっ。 ・ 事業の必要性	歴事業と関する。 歴事業と関する。 を主にで変化はなる。 は、事業ののは、事業でのは、主の配慮が作ります。 は、ままして、できます。 は、ままます。 は、ままます。 は、ままます。 は、ままます。 は、ままます。 は、ままます。 は、まままます。 は、まままます。 は、まままます。 は、まままます。 は、まままます。 は、まままます。 は、ままままます。 は、ままままます。 は、ままままます。 は、まままままます。 は、まままままままままままままままままままままままままままままままままままま	数・単価等ので発生している。 で発生している。 で発生している。 で発生に変わる。 できない。 できない できない できない できない できない かいがい できない かいがい できない かいがい かいがい かいがい かいがい できない かいがい できない かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かい	の時点 ったする 事作が路差がによる 環境連	修 取 団生備推 で の の で の の で の の の の の の の の の の の の の	よ物営不一をピー・と事良体図ど 画進ク業、的るおののー	取が 表覆基材 にほな必必 りが場が り変是非を半 ・プラン	祖とし、実不のありを必判しにある。	て再利 こうかく すまる いて 環 できつん こうしょう こうしょう こうしょう こうしょう こうしょう こうしょう しょう しょうしょう しょうしょうしょう しょうしょうしょう しょうしょうしょうしょう しょうしょうしょうしょうしょう しょうしょうしょうしょう しょうしょうしょうしょうしょうしょう しょうしょうしょう しょうしょうしょうしょう しょうしょうしょうしょう しょうしょう しょうしょく しょうしょく しょうしょく しょく しょく しょり しょく	たが、 小区より とがあ	大部分のである。	の生産基盤 ため、作を図 立置付けら	能は未整 送効率が 引るもの	備であり、 ‡ がまく担い手がである。	非水路の切
縮減などの取組  ア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	取組の項施工の最適化  ●本地区は、前深不足障と必要性  ・事業の必要性  ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	歴事業業をはなる は、このでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	数・単価等ので発生している。というでは、大きなである。というでは、大きなである。というでは、大きなである。というでは、大きないでは、大きなでは、大きないでは、まないでは、まないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	の時点 ったす。 事作水事 によより また。 また。 また。 また。 また。 また。 また。 また。	修 き ゆの答り く 事事 隆漁 ・ での答り く まず マ協 ・ 意が で で で で で で で で で で で で で で で で で で	は 物	取れたでは、ははは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	祖と 実不のあ を 送判 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に に に に に に に に に に に に に	で再利 こうが できつい できつい できつい できつい できる の 必 で 環上	たが、 小区より により で汚る	大部分 可である 可効率的 る。	の生産基盤 ため、作を図 立置付けら	能は未整 送効率が 引るもの	備であり、 ‡ がまく担い手がである。	非水路の切
縮減などの取組 アン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	取組の項施工の最適化  ●本地区はは、系統では、系統では、系統の支管の必要を必要を  (1)環境 ●本地区は、系統のである。 (1)環境 ●本地区は、系統のである。 (2)事業技術である。 (2)事業技術である。	歴事業業をはなる。 は、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、	数・単価等ので発生している。というでは、大きなである。というでは、大きなである。というでは、大きなである。というでは、大きないでは、大きなでは、大きないでは、まないでは、まないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	の時点 ったす。 事作水事 によより また。 また。 また。 また。 また。 また。 また。 また。	修 き ゆの答り く 事事 隆漁 ・ での答り く まず マ協 ・ 意が で で で で で で で で で で で で で で で で で で	は 物	取れたでは、ははは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	祖と 実不のあ を 送判 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に 説明 に に に に に に に に に に に に に	で再利 こうが できつい できつい できつい できつい できる の 必 で 環上	たが、 小区より により で汚る	大部分 可である 可効率的 る。	の生産基盤 ため、作を図 立置付けら	能は未整 送効率が 引るもの	備であり、 ‡ がまく担い手がである。	非水路の切
縮減な組 / 評 値 ・ 事進で ・ 事進で ・ 事進で ・ 事進で ・ 事進で ・ 最 ・ 最 ・ 最 ・ 最 ・ 最 ・ 最 ・ 最 ・ 最	取組の項施工の最適化  ●本地区は環での必要性  のでは、にはできる。 のでは、では、ではできる。 のでは、ではできる。 のでは、では、ではできる。 のでは、では、では、では、できる。 のでは、できる。では、できる。 のでは、できる。できる。 のでは、できる。できる。できる。できる。できる。できる。できる。できる。できる。できる。	歴事来をはなる。 をはいないでは、事業はは、事業はは、事業はは、事業はは、事業はは、事業はは、事業はは、事業	数・単価等のでで、必のの及びは、では、必のの及びは、では、必のの及びは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	の	修 を の の の で の で の の は の の に の の に の の の の に の の の の の の の の の の の の の	はる な	取 表 で に は は は は は は は は は は は は は	祖と 実不のある、推要断に説 た 定権を入る、推要断 お明 要 年	て再利 こうが です ある いった とが での での こうが でん こうがん こう こうがん こうがん こうがん こうがん こうがん こうがん	たが、画りのでは、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切	大部ある的のである。	の生産基盤業 では、 で営農をで でごと でごと でごと でごと でごと でごと でごと でごと でごと でご	は未整が到るもので られていた。	備であり、 t 悪く担い手 <sup>/</sup> である。 している。	非水路の切入の農地集
縮減などの取組 ア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	取組の項施工の最適化  ●本本地区は時代の表演の事業を ●本地区の接続である。  (1)環境・事業・事業・事業・事業・事業・事業・事業・事業・事業・事業・事業・事業・事業・	歴水でには、まず、までは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	数・単価等で発生している。必のの及びはいるでである。というでは、必のの及びしませい。これでは、必のの及びしませい。これでは、必のの及びしませい。これでは、必のの及びしませい。これでは、必のの及びは、必ののの及びは、必のの及びは、必のの及びは、必のの及びは、必のの及びは、必のの及びは、必のの及びは、必のの及びは、必のの及びは、必のの及びは、必のの及びは、必のの及びは、必のの及びは、必のの及びは、必のの及びは、必のの及びは、必のの及びは、必のの及びは、必ののの及びは、必ののの及びは、必のの及びは、必のの及びは、必のの及びは、必のの及びは、必のの及びは、必ののののなののののののののののなののののののののののののののののののののの	の	修 き	は 大	取 表 で に に に に に に に に に に に に に	祖と 実不のあ を 多別 に説 た 定 達 内へい 施整大る 推要断 お明 要 年 成 原 の の の の の の の の の の の の の の の の の の	て再和 この	たが、画りのでは、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切	大部ある的のである。	の生産基盤業 では、 で営農をで でごと でごと でごと でごと でごと でごと でごと でごと でごと でご	は未整が到るもので られていた。	備であり、 ‡ がまく担い手がである。	非水路の切入の農地集
縮減な組 / 評 値 ・ 事進で ・ 事進で ・ 事進で ・ 事進で ・ 事進で ・ 最 ・ 最 ・ 最 ・ 最 ・ 最 ・ 最 ・ 最 ・ 最	取組の項施工の最適化  ●本本地区は時代の表演の事業を ●本地区の接続である。  (1)環境・事業・事業・事業・事業・事業・事業・事業・事業・事業・事業・事業・事業・事業・	歴水でになる。 事のいた化業工工の は、まままでは、 は、まままなは、 は、まままでは、 は、まままなでは、 は、まままなでは、 は、まままなでは、 は、まままなでは、 は、まままなでは、 は、まままなでは、 は、まままなでは、 は、まままなでは、 は、まなでは、 は、まなでは、まなでは、 は、まなではなではななななななななななななななななななななななななななななななな	数・単価等のでは、必のの及びは、大きになるが、できないでは、必のの及びは、大きをは、できないできないでは、できないで	の	修 き なかをか く 事事 と	は、大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大	取 T T T T T T T T T T T T T	祖と 実不のあ を 送り に説 た 定 達れ です いし に説 た に説 た に説 た に説 た に に に に に に に に に に に に に	て再利 こうかん すある いった から 見込 での 見込	た小に 要 境で わ	大部あの 対の る。 (区域理施 にいる。	の生な 立設を できな	は未整が到るもので られていエ	備であり、 悪く担い手 <sup>/</sup> である。 る。 している。	非水路の切入の農地集
縮減など の取組 / 評 価	取組の項施工の最適化  ●本本地区は暗えな要性  ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	歴水でになる。 ・ 業来を化業者である。 ・ まる。 ・ では、 ・ では、	数・単価等のでは、必のの及びは、大きになるが、できないでは、必のの及びは、大きをは、できないできないでは、できないで	の BFIFIT 化にに 弱た 事作水事 はよよ 境め 動 通 支 影は の を を に に の を に に の を に に の の を に に の の に に の の の の の の の の の の の の の	修 on Man on Man o	は 関本一を と 一生 スロー 気 期 で 題 課困 成 いる を 事良体図 ど 画進 タエーの 完 は 題難 要 止る ジー ジー 業、的る おののり 一事 の 成 なっぱり 望った ないのいり アル・カー の は かいましょう はんしん はんかい 望った かいしょう しゅうしゅう	取材 にほな必 り変是 って、 なが も のが場が 業 がを コンを け 予 、さ け で プログラー・ で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	祖と実不のあを必判に説を定達れて中内して施整大る、推要断がお明要年に成る。いよい上	て再利 こうかん すある いった から 見込 での 見込	た小に 要 境で わ	大部あの 対の る。 (区域理施 にいる。	の生な 立設を できな	は未整が到るもので られていエ	備であり、 悪く担い手 <sup>/</sup> である。 る。 している。	非水路の切への農地集

VI 備 考	
	【評価結果】
1.評価履歴	<ul><li>事前評価:該当なし</li><li>再評価 : 該当なし</li></ul>
I ・□T  Щ/I友/正	【特記事項】
2. その他の 取組事項	

補足資	<del></del> 料											
VII 事業	計画変更							-	- 7117 <del>111</del>			
事業経	<b>過</b>  再評価	事業採択		評価年度	変更年度	完了予定		<del>事</del>	総事業費	当該年度 事業費	累計事業 費(b)	進捗率 (b)/(a)
事前評価 又は当初		H30 (2018)	H30 (2018)			H36 (2024)	経		(a) 889	争来質	賃(0)	(D)/ (a)
変更①	1回目			R5 (2023)	R3 (2021)	R7 (2025)			1,297	339	751	58%
変更②							過					
変更③							(					
変更④												
変更⑤							年					
変更⑥												
変更⑦							数					
変更8												
変更⑩							5					
変更理由	日・内容	• <u>†</u> • <u>†</u> • <u>}</u>	区画整理につ 非水路につい 非水路につい 資材、労務単	かいて、農地) かて、土捨場の かて、工事用が がでの上昇や	流動化により の変更に伴い 首路の地耐力 肖費税率の変	1、残土運搬買 1不足に伴い、 変更による事業	巨離が 敷鉄 業費のi	曽とな 坂によ 曽	整備することによる仮設工を追ったによる仮設工を追いとに伴う事業	る事業費の 協加したこと	増 による事業費	





